

YCU 第2クォータープログラムプログラム 派遣学生報告書

氏名	A.N	学部・学科	国際商学部・国際商学科
学年	2年	派遣国	カナダ
派遣大学	ビクトリア大学		
プログラム名	Summer Language and Culture		
期間	2023年7月31日～2023年8月25日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業は初回のスピーキング・ライティングテストの結果によりレベルごとに分けられたクラスで行われた。クラス15人の少人数クラスで毎回グループに分かれ、ネイティブの先生の授業を受けるという形態であった。授業内容としては、毎回最初に指定された簡単なトピックに関する軽い会話をペアやグループで行い、その後に授業に入っていくという形であった。教科書を用いた文法や文章を読み問題をグループで解いたりするような日本の中学高校で行われるような授業もあったが、一人で何かをするということはほとんどなく授業のほとんどは会話などアウトプットをする時間であった。

特に印象に残った授業は、発表をする授業だ。一つ目はカナダで自分が訪れた場所についてプレゼンをする授業だ。制限時間としては10分もなかったが、私にとっては自分だけで英語でプレゼンを作り、英語で発表するというのは初めてのことで、少し挑戦的であった。しかしプレゼンが終わると達成感や自信を得ることができた。もう一つ世界で有名な人物を紹介する授業があった。これは個人ではなくペアで行い、その人物についてのポスター作成、話す内容を授業時間外に話す時もあった。これら2つの授業が一番時間を費やした課題、授業であったのでとても印象的であるが、大変というほどではなく充実した時間であった。

課題については教科書の文法の問題を解いてくことや、次の日に行われるイディオムテストに向けた勉強をするなどあまり重い課題は日常的に課されなかった。プログラムの中盤以降はこのような課題や発表に向けた準備がほとんどであったが、最初の方には違う国の生徒にインタビューをして文化の違いなどをまとめる課題があった。同じ言語の人と話せないことで何としても英語でコミュニケーションを取る環境を作られたことは英語力向上に大いに繋がった有意義な授業だったと思う。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500字程度)

第一に英語の語彙力、発音や話すスピードが大いに向上したと感じた。授業内で先生がネイティブの人が日常で使うような単語やイディオム、学問的な単語を教えてくれたり、自分が書いた文章を丁寧に添削して文法や言い回しなどを学ぶことができた。他にも発音記号の読み方、発音の仕方なども丁寧に教えてくれたことがとてもよかった。また私のクラスには15人中4人しか日本人がいなかったこともあり、同じグループになることはほとんどなかったのも、うまく説明できなくても日本語が使えないので何があっても英語を使わないといけないという日本ではあまり体験できない環境はとても有意義な時間であった。

また違う国の生徒と関わることでその国の文化を知ることができたり、それ以外にも国ごとの英語学習の特徴や強み弱みを見つけることができ、個人的にはその部分を興味深く感じた。また授業後の大学側が用意してくれていたアクティビティでビクトリアの歴史的な博物館を訪れたり、ボードゲームをしたりしたことでカナダの文化も知ることができ英語以外のことも学べ、とてもいい経験になったと感じた。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように(気持ちなどが)変化したか。(400字程度)

自分から積極的に行動することが増えた。4週間は何もしなければすぐに終わってしまうと思っていたので、できる限りいろいろなことをしようと心掛けた。他の人に合わせて日本人の友達といるよりも、現地でできた他の国の友達とより多くの時間を費やし、いろいろな話をしたり出かけたりしたことが自分にとって有意義な時間を現地で過ごせた大きな要因にあると思う。他にもアクティビティに参加したり、行きたいところに行ってみたり、自分のやりたいことは何でも挑戦してみようという気持ちを持つようになった。また世界にはいろいろな文化やそれぞれの性格があるということも授業や会話から学び、今まで以上に言語以外にも世界の文化などを学びたいと思うようになったとともにそれぞれをリスペクトしあうべきだと感じた。もちろん英語についても新しい友達ができたとや外国の良さを知れたことで、今後も友達とコミュニケーションをとるためにも、海外にこれから行くためにもより一層英語を勉強しようと強く思うようになった。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300字程度)

4週間はすぐに終わってしまったと感じるくらい、このプログラムは私にとって充実した有意義な時間であった。この4週間を過ごしたことで、英語学習のモチベーションは大いに上がったと思う。これからの学業では積極的に英語の科目を取ったり、オンライン英会話を継続したりとより一層英語勉強に励もうと思う。

また渡航前は漠然といつか海外で働きたいという思いがあったが、今回実際海外に行ったことで、なんとなく海外で働くというイメージが持てた。海外のいいところを見つけ働きたいなとも思ったが、それとともに日本の良さも再発見し、今後就職場所や分野において少しずつ真剣に考えようと思った。自分から情報収集をしたりキャリアセンターに頼りながら今後のことを考えていきたいと思う。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏名	H.M	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学年	2年	派遣国	カナダ
派遣大学	ビクトリア大学		
プログラム名	Summer Language and Culture		
期間	2023年7月10日～2023年8月18日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

普段の授業は、私たちにとってとても身近なテーマで進められました。具体的には、食べ物や家族、お金、お土産、パーソナリティ、スーパーヒーローなどについて英語で学習しました。そのなかでも個人的にはお土産の内容が印象的でした。グループワークだったのですが、各グループがどこか一つの国を選択し、その国のお土産を調べてポスター作りをしました。最終的には、他のクラスと合同でお土産の魅力をアピールしようというワークショップも行われました。ポスター作りやワークショップも含めて、他の学校や国の友だちと英語で会話をしながら進めていくことがとても楽しい経験になりました。私のグループは韓国のお土産について調べたのですが、英語での会話はもちろんのこと、日本と隣国で身近な国の文化についての理解も深められて、良い機会になったと思います。他のグループでは、イギリスやフランス、タイやメキシコなど、幅広い国のお土産について調べており、ワークショップも非常に盛り上がりがありました。また、これらの他にも即興のプレゼンテーションをするという機会もあり、これも印象的でした。一人一人異なるテーマを与えられ、プレゼンテーション前には原稿を考える時間をしっかり取ってくれました。事前に詳細を知らされずに行うプレゼンテーションは初めてだったので不安や焦りもありましたが、限られた時間で簡潔に英語の文章をまとめる練習にもなり、良かったと思います。そして、課題は、必ず毎日毎授業分のものが出されるというわけでもなく、想像していたより負担は大きくなかったです。出された課題としては、長文を読むことやその語彙の意味の確認、ミニ単語テストの勉強、ライティングなどでした。さらに、6週間のうちの後半である4週目からは一人一人本を読まないといけませんでした。個人個人で少しずつ本を読み進めつつ、途中で授業内で自身のその本の内容をグループに共有したり、自身がその本を読んだ要約や感想を紙にまとめる課題も出されたりしました。このように、授業内容も課題内容も様々でした。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500字程度)

授業を受けてみて、語彙やイディオムの知識が得られたと感じました。授業内ではリーディング練習もよく行われたのですが、その文章に出てきた語彙の意味についての確認問題をたくさん解きました。また、食べ物や家族などのテーマに関するイディオムについても学習しました。その際には画面に出されるイディオムがどのような意味なのかをグループで推測したのですが、簡単な単語が含まれているイディオムでさえも推測が難しく、良いトレーニングになりました。語彙もイディオムも定期的にミニテストが行われ、ミニテストのために勉強をしたことで定着させることができました。さらに、文法の知識もより深めることができました。授業では、be going to do や will などの未来形や、比較級と最上級、現在完了形などといった、比較的初歩的な文法を学習する機会がありました。自分自身としては文法にはかなり自信があったつもりだったのですが、改めて学習し直してみると勘違いしていた部分や新たな発見があり、文法の知識が再度身についたと思います。個人的には特に、似ている文法同士（未来形なら be going to do や will など）の細かな違いを今まで認識できていなかったのですが、授業で先生が何度もわかりやすく説明して下さったおかげでしっかりと理解することができました。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400字程度)

授業を受ける前は、スピーキングに自信が全くありませんでした。正しい文法で話さない相手には伝わらないのではないかと考えていたり、相づちも曖昧な返しになっていたり、スピーキングは苦手でした。しかし、授業で他の学校や国から来た友だちやCAさん、先生方と英語での会話を繰り返していくうちに、変に文法や語順を気にすることよりも、伝えようとする意欲を持ちながら楽しく堂々と自分が知っている文法や単語を使うことのほうが何よりも重要であると気付きました。だからこそ、良い意味で気楽に英語を話してよいのだなと思うようになり、この点が自分にとっての大きな変化したところだと感じます。また、授業前は、英語は単語などを元々知っている人しか話せない言語だというイメージがありました。しかしクラスで自分よりも流暢に話している友だちでも、わからない単語があったらすぐにその場で調べていました。その様子を見て、英語は使いながら知識や理解を深めていく言語であると思いました。そのため、元々の知識が十分でなくても安心して使っていくとできるようになり、この点においても変化したと言えると思います。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300字程度)

上記(2)でも述べましたが、自信があった文法でもまだまだ学ぶべきことが沢山あると感じたため、今後は文法についての知識をさらに深めていくことが自分自身の課題であると思います。初歩的な内容からまた復習をするのは大変かもしれませんが、逆に新たな発見を楽しもうというポジティブな気持ちで臨みたいと思います。また、スピーキングにあたって今後より自信をつけられるよう、日常的に友だち同士で英会話をすることでコミュニケーションの機会を大切にしたり、わからない単語があればその場で調べてさらに知識を増やしたりしようと考えています。さらに、リスニング力もまだまだ不足している部分があると感じることも多かったので、英語の字幕付きで映画を見るという練習も重ねていければと感じています。これは先生方も実際に良い英語の勉強法だとおっしゃっていたので、実

践して英語力のさらなる向上に努めたいと思います。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏名	M.S	学部・学科	国際商学部・国際商学科
学年	2年	派遣国	カナダ
派遣大学	ビクトリア大学		
プログラム名	Summer Language and Culture		
期間	2023年 7月 9日～ 2023年 8月 21日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

1日2つのクラスがありましたがどちらもディスカッションをメインとしたグループワークが特に多く感じました。毎回の授業で必ず一度はグループディスカッションの時間があり、ディスカッションのテーマは文化の違い、家族について、理想の先生像など多岐に渡りました。ディスカッションの後には、グループの意見や個人の意見を発表する場もありました。毎回テーマごとに文法や語彙について意識すべき部分があったので、ただ話すだけではなく speaking 力の向上に役立ったと思います。また他にも speaking については短時間のプレゼンテーションといった人前で話す機会があり、その評価もつけていただけたので改善していくことができました。

listening や reading ではカナダの文化や歴史についての題材も多く、英語以外の知識も広がり、多くの学びが得られました。reading で印象的だったのは、ペアで2種類の違うプリントを渡されそれぞれが内容を要約して伝え合うというものです。英語で要約するにあたって語彙力が鍛えられたうえ、話のテーマもそれぞれ全く違うものだったため面白かったです。

writing では架空の店への返品・交換依頼のメールを書くという課題が印象的でした。人によって様々なシチュエーションを考えていて、実際に生活で役立つと感じました。

全体を通して4技能それぞれに特化した授業内容ではなく、ひとつひとつの題材で listening と writing、reading と speaking など組み合わせた内容がほとんどでした。中でも印象的な題材は1週間程度かけて扱ったスーパーヒーローでした。スーパーヒーローの特徴について語彙を学び理想像を話し合ったり、世界のヒーローを知って紹介し合ったり、ハリウッド俳優がヒーローについてインタビューを受けた時の動画を見たりと様々な方法でアプローチしました。グループで独自にスーパーヒーローとそのストーリーを作り上げて、他グループに発表し合い順位をつけるという活動もしました。

授業内容や題材に変化があり、飽きずに学ぶことができました。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

英語に関しては文法や語彙はもちろん、イディオムを豊富に学ぶことができました。まず、文法は主に教科書や先生独自のプリントをもとに学びました。日本で学んだことのある内容と似ていましたが、小さな疑問についても微妙な違いを説明してくれたのでより分かりやすかったと感じます。語彙はその時扱っている授業の題材によって関連性のあるまとまりで学びました。例えば先生の理想像やヒーローが題材の時は性格を表す単語を多く学び、その場で使うことで覚えました。イディオムを学習するときはすぐに意味を教わるのではなく例文が提示され、それをもとにグループで意味を推測し、正しい意味がわかった後には自分でも例文を作るという学び方でした。ただイディオムを習うよりも身についたと思います。

また英語以外にも、カナダを中心に日本とは違う文化や習慣を知ることができました。カナダのお土産について、Boxing Day と Black Friday、カナダの歌などのテーマが授業で扱われ、いつでも質問をすればいつでも先生が答えてくれたのでより深く文化を学べました。カナダの文化以外にもクラスメイトの韓国人や台湾人の子と自国について話すことで文化交流ができました。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業が始まる前は自分の英語に自信がなく、文法や単語も曖昧でうまく言葉が出てきませんでした。授業を受けてからは以前より英語で話すことのハードルが下がったと感じます。自分の英語力が伸びたことはもちろんですが、先生やサポートの方々の受け入れてくださる姿勢があったからだと思います。たとえ文法や単語などが間違っても伝えようとすれば汲み取ってくれたので、なんとか伝えようと話す癖がつかしました。分からない単語や疑問があれば気軽に質問することもできたため今まで日本で勉強してきたよりも、リラックスしてコミュニケーションとしての英語を伸ばすことができました。ゲームやディスカッションなど会話が多い授業だったことも非常に大きいと感じます。一方で会話にはあまり重要ではないと感じた文法も、読み書きには重要だということを実感し、まだ自分は知識が足りないことを痛感しました。ビジネスの場などでも活かせるように文法は学び直したいと感じます。

(4) 今後はどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今後はこの経験を生かして自ら英語を学び続けます。特に 1 番成長したと感じる speaking の力を保つために Communication hour に参加する、何かを話した音声を録音して聞き返すなど日常的に英語を話す工夫をしていきたいです。今回同じプログラムに参加した学生と一緒に英語で話す機会を設けたいとも思っています。また文法を 1 から復習することや語彙を増やすことに努めるなど成長を続けられるようにし、TOEIC などの試験を受けることで自分自身の意欲を保ちます。そしてこのプログラムは自分の学ぶ姿勢を改める機会にもなったため、英語以外についても分からないことはすぐに聞く、積極的に学ぶなどの心を忘れないようにします。6 週間という期間を無駄にしないように勉強に励みます。